

## ビニャ・デル・マル国立植物園でのお花見事業 2024

2024年10月8日

10月5日（土）、バルパライソ州ビニャ・デル・マル市の国立植物園（Jardín Botánico Nacional de Viña del Mar）において、同植物園の協力を得て、バルパライソ日系人協会との共催により大火災復興祈念の「お花見事業 2024」を開催しました。



「お花見事業」は、日本古来の風習に倣い、ここチリでも桜の花を愛でながら日チリ文化交流を行おうとのバルパライソ日系人協会のイニシアティブで 2010 年に始まりましたが、今年は 2 月に発生した大火災からの復興と回復を祈念するという特別に深い意味が込められたものとなりました。



バルパライソ日系人協会の  
ハルコ・サンチェス・スズキ会長



伊藤大使はビニャ・デル・マルへの  
哀悼と連帯を表明

開会式は、火災被害の多数の犠牲者やそのご遺族への哀悼、そしてビニャ・デル・マルの復興を祈願して、黙祷を捧げて始まりました。伊藤大使は、庭園の整備を含め、桜や「グリーンレガシー」プロジェクトにより植林された木々のある平和公園の復興に献身的に取り組む、今回のお花見の実現に尽力して下さったバルパライソ日系人協会とビニャ・デル・マル国立植物園に敬意と謝意を表明し、困難な時にも復興へ向けて集い、共に前を向いてお花見を通じて友好の絆を深めようと呼びかけました。



お琴と尺八による「さくら変奏曲」の合奏



武田 JICA 所長とアルバロ西川さん



さくらの折り紙を折る来場者と  
折り紙講師の峰村さん（右端）



桜の木に彩りを添える折り紙のさくら

会場内では、さわやかな春日和の下、空手や柔道、忍術、薙刀、相撲、書道などのデモンストレーションや、アニメ・ソングが披露されたほか、折り紙、塗り絵、囲碁、盆栽展示などを通じて日本文化に触れる機会が提供されました。

特に今回のお花見では、早期の復興を願ってたくさんの市民が自らの手でさくらの折り紙を折り、ダメージを受けた樹に飾り付けて木々を彩ったほか、子供達もさくらの絵を描いて園内を飾ってくれました。また、伊藤大使は桜色の着物姿で、ロペス尺八奏者とともに「さくら変奏曲」の琴演奏で花を添え、JICA チリ支所の武田所長は日系人ブラジル人の西川アルバロさんと三味線や唄を披露し、今回の特別なお花見を盛り上げて下さいました。最後は、来場者も皆一緒に盆踊りを踊って締めくくりました。



空手デモンストレーション



書道デモンストレーション



火災を生き延びて 花を付けたさくら



子供たちは さくらの絵を描いてくれました

なお、今回、傷ついた桜の木々の中から精一杯に今年の花を咲かせてくれた木が何本か見られました。また、寄付金で新たな桜39本が8月に植樹され、新しい桜も咲き始めています。これらは、今後、日チリ、日バルパライソの新たな友好のシンボルになることでしょう。当館も、ビニャ・デル・マルと同国立植物園の復興を祈願し、同地域と日本の友好関係強化に引き続き取り組んでまいります。



みんなで踊った盆踊り



最後に、すべての犠牲者とそのご遺族、被災者の方々に、改めて心からのお見舞いを申し上げますと共に、寄付や支援してくださっている多数の日本企業、関係機関の皆さまにお礼申し上げます。  
(了)